

登録コード	UAA16500	開講年度	2026				
授業題目	英米言語文化総合演習					担当教員	伊藤 尽
						副担当	飯岡 詩朗・SPREADBURY ASH LEIGH・田所 朱莉
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					数百年に及んで確立してきた概念の妥当性について、客観的・実証的な研究で認めることの可否を専門性の高い学術的知見によって検証できるようになる。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					中世から近世までの文献学的な資料を検索し、かつ先人の著作に触れることで、文献学的な調査方法を習得し、同時に21世紀的な分析、情報の蓄積のもとで新たな知見を構築する方法論を修得できるようになる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					専門的な英語文献の読解を通じて、文法や構文のみならず、論理的、修辭的な表現を習熟できるようになる。	
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					本研究を通じて、英語圏における「アングロ・サクソン」という概念の輪郭と内実の深層もしくは真相に到達するための課題に直面し、それを克服するための能力を身につけることができる。	
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。					ひとつの概念をめぐる、様々な解釈や意見、先入観や偏見も含む過去の考え方に接することで、倫理的にも人文学という学問的にも、バランスのよい解釈を会得することができるようになる。	
(2)授業の概要	John D. Niles, The Idea of Anglo-Saxon England 1066-1901の講読・要旨把握・批評発表を通じて、11世紀から19世紀までの「アングロ・サクソン」という概念の内容や価値の変遷について概観し、Nilesの見解・考察を批判的に検討する演習形式の授業です。 英国のみならず、米国においても「アングロ・サクソン」という用語は、様々な問題を含んでおり、専門的な知識無く無批判に使うことで政治的、倫理的、歴史的、文献学（言語学）的に誤解や誤った考え方に陥る危険性を孕んでいます。本講義を通じて、その危険性を改めて認識するだけでなく、それを踏まえた上で、古英語研究・現代英語研究の字補を固めることを目標とします。						
(3)授業計画	第1回：オリエンテーション、授業の進め方の解説・Preface読解 第2回：Discussion on the 11th Century Impact of Norman Conques 第3回：Discussion on the 12th Century Impact of Norman Conquest 第4回：Discussion on the Discvery of Anglo-Saxon in Tudor Period 第5回：Argument on the British Antiquities 第6回：A Study on John Milton 's Satan and One in Genesis B 第7回：Discussion over the Founding of Discipline in the 17th century 第8回：Discussion over William L ' Isle and William Somner 第9回：Comprehension of the 18th Century Consolidation 第10回：Understanding George Hicks, Wanley 第11回：An Interest in Anglo-Saxon Rune Poem 第12回：Comprehension of Romanticism over the Idea of Anglo-Saxon 第13回：Presentation on Philology 第14回：North America and Anglo-Saxon 第15回：British Empire and the Idea of Anglo-Saxon						
(4)成績評価の方法	授業内のディスカッション40% 授業内のプレゼンテーション40% 期末レポート20%						
(5)成績評価の基準	授業内ではプレゼンテーションとディスカッションについて評価し、授業外では期末レポートを評価します。 授業内でのプレゼンテーションは 論理的整合性がとれていれば、「標準」と プレゼンテーションの資料の網羅的な調査と整理が出来ていれば「やや上まわる」と プレゼンテーションの内容にオリジナリティが反映されていれば、「かなり上まわる」と プレゼンテーションの内容に先行研究への批判が加われば「卓越している」と評価します。 授業外の期末レポートでは 論旨が正確ならば「標準」と 資料の扱い方に論旨に合致しているならば「やや上にいる」と評価します 資料の扱い方に創意工夫が見られる場合「やや上回る」と 論理的枠組みにオリジナリティが確認できた場合、「卓越している」と評価します。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習： 授業計画で各回に指定されたセットテキストの箇所を読み、要約と問題点について発表する準備を行います。						

(6)事前事後学習の内容	事後学習： 授業内での議論に基づいて、期末レポートに活かすべき内容をまとめておき、レポート執筆時に活かします。
(7)履修上の注意	事前にセットテキストを入手する必要があります。 購入もしくは図書館で貸し出して、事前準備をしましょう。 なお、信州大学図書館でオンラインによる利用が可能です。OPACで検索してください。
(8)質問,相談への対応	基本的にe-Alps上のフォーラムもしくはメールでの対応となります。 j-tksito@でアットマークの後は信州大学アカウントになります。
【教科書】	John D. Niles. 『The idea of Anglo-Saxon England 1066-1901 : remembering, forgetting, deciphering, and renewing the past』 WRiley Blackwell, 2015. ISBN: 9781118943328
【参考書】	教科書として指定されたセットテキスト内の参考文献一覧を参照しましょう